

コラム①

アオウシノケグサが百人浜から・・・

西北海道の日高町に住んでいるが、東北海道のえりも町百人浜のクロマツ植林地の植生・植物相の消長に関心を持ち、ときどき訪ねている。

2019年10月22日には、札幌営林局が1953年から百人浜で始めたという（さっぽろ林友188 1977）草本緑化事業で播種されたイネ科外来種カモガヤ、オオアワガエリ、ヒロハノウシノケグサ、ナガハグサ、コヌカグサを確かめるため訪れた。そして、上記の外来種は確認したのであるが、オニウシノケグサ、オオウシノケグサとウシノケグサの一品（稈の上部に上向きの微毛が密生している）もあった。ちなみに、ウシノケグサの一品は、大きな株になっている所もあった。

帰宅してから図鑑（改訂新版日本の野生植物2）を開いて、アオウシノケグサ *Festuca ovina* var. *coreana* と同定した。でも、3種は営林局が播種していない植物。播かれたタネに混入していたのであろうか……。それはともかく翌年の6月、アオウシノケグサが様似町の海食崖（塩釜トンネル、観音山、エンルム岬）でも発見できたのである。それゆえ、百人浜

に近い襟裳岬でも発見できると思い、7月10日に訪ね、駐車場や遊歩道の縁を探った。オオウシノケグサが目立っていた。他にカモガヤ、オオスズメノテッポウ、オニウシノケグサがあり、高山植物のヒロハノコメススキもあった。でも、アオウシノケグサがなかったのだ。

帰りは百人浜に寄ってアオウシノケグサの大きな株を撮って様似町へ。車窓から日高耶馬溪の海食崖を眺め、今度訪ねるのはここ耶馬溪か、えりも町の黄金道路だと思った。その訳は、両者の海食崖には平成年代トンネルの掘削工事や災害復旧工事でイネ科植物による緑化が行われているからである。

結局、東北海道が先だと、黄金道路東端の目黒トンネルに決め、訪ねたのは7月17日のこと。えりも町に入り、えりも黄金トンネルの長さ（約5km）を我慢し、目黒トンネルに到着した。昼食を摂ってから、入り口に近い崖を登ってみるとアオウシノケグサがあった。

おわりに、イネ科植物を同定してくださった木場英久博士（桜美林大学）に心からお礼を申し上げる。（高橋 誼）



図1 百人浜のアオウシノケグサの株
2020.7.10



図2 目黒トンネルのアオウシノケグサ
2020.7.17